

目的 人体の頸部・肩部は旧体差のあらわれ易いところであり、衣服の美しさを決定する部位である。本報ではこれらの部位の身体計測値を用いて衣服原型を作成し、身体計測値とパターンメイキングの関連性について考察した。また標準寸法を用いて他の6種の原型作図法について比較検討した。

方法 被験者本学女子学生15名、計測器はマルケン式身長計、巻尺、肩角度計、ネックゲージ(近藤氏考案)を用い計測項目は28項目である。各被験者の測定値を用いて試集の作図法により、10cm方眼の線入り天竺木綿で身ごろ原型を作成し着用実験を行った。頸部・肩部についてその適合性を確認し、着用後のパターンについて8項目計測した。

結果 ①ネックゲージを用いて得られたパターン上の首付根回寸法は、身体計測値よりやや小さくなり両者間に1%水準で有意差が認められた。②頸部4項目と首付根回の相関性は、前首幅と首付根回に中程度の相関が認められた。③肩傾斜角度を作図上にヒッ入れた結果、補正率は19.3%と少なく、身体計測値とパターン計測値間に有意差が認められず肩部の適合性は良好であった。④Aの襟エについて簡単に測定する方法を試みたが、補正率が49.5%と(6.5~10cm)ありゆとり量の決め方について検討する必要がある。⑤他方式による6種の原型と比較すると、後衿ぐりの襟エの決め方はまちまちであり、Y式が本資料と近似となりこの数値は頸側点の位置と一致した。首付根回はT式が1.8cm小、Y式は1.4cm大となり他の4種は標準サイズに近似であった。肩傾斜角度については、B式、M式、Y式が計測値の平均角度22.3°と近似であったため、適合性は良好であった。